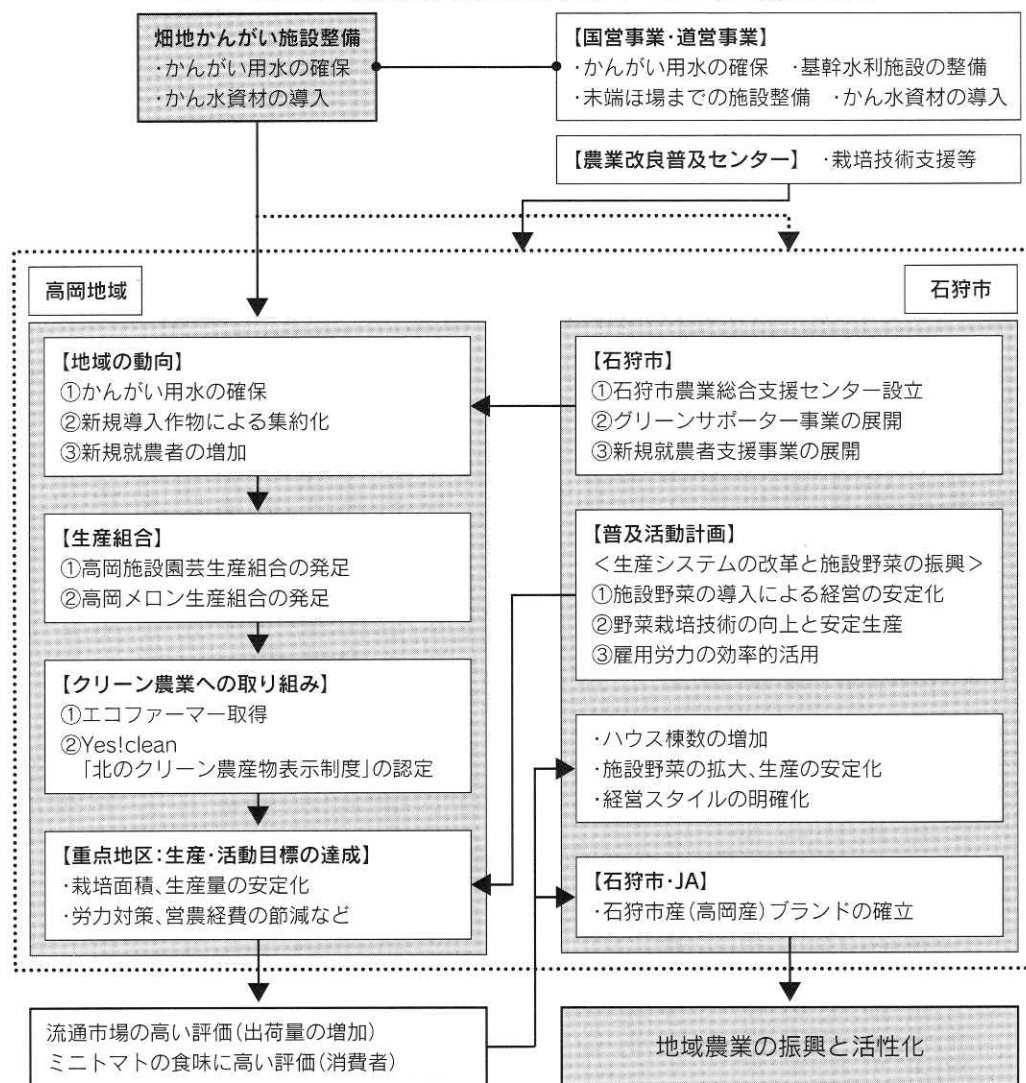


図4 高岡地域における畑地かんがいと地域営農の関係



規就農者の確保にも明るい兆しを感じる材料となり、精神面での評価も高いものである。さらに、地域の農業振興計画との関係性からも、地域に

における明確な位置付けが読み取れ、畑地かんがい施設の有効性とその効果をみることできた。

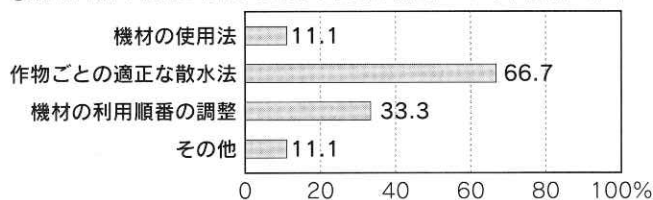
これらの効果は、地域農業

の活性化に向けた畑総事業および畑地かんがい施設導入による成果と評価できる。

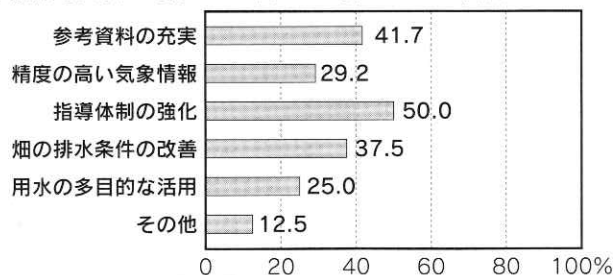
今後の課題
メロン栽培におけるかん水

図5 かん水施設整備農家アンケート集計結果

①畑地かんがい施設を利用するうえでの問題・課題について（回答数：9戸）



②今後、畑地かんがいを行っていくうえでの要望について（回答数：24戸）



技術面に対し、不安が感じられていた。また、受益者のアンケート調査からも「作物ごとの適正な散水方法」の確立が望まれており、さらに「指導体制の強化」[参考資料の充実]（図5）といった要望もみられた。

このように、施設整備を終えた高岡地域では、多様な作物に対応したかん水技術の確立とその普及が今後重要な要素となる。また、地域の営農指導機関などの連携により、水を利用した新たな営農技術の確立や営農情報の普及が重要となる。

今後、畑地かんがい施設を整備していく地域において、地域農業との関わりを明確にし、地域農業の新たな戦略の一つとして、かんがい用水の活用を位置付けていくことが望まれる。また、地域特性に対応した、かんがい技術の確立とその普及が、施設整備効果を確実に発現させるうえで重要な要素となる。